

外部評価委員

坂本 亘

近畿大学水産研究所

近畿大学グローバル COE では、拠点運営体制を組織化する際、教育研究活動の状況を把握・改善する仕組みの一つとして、外部学識経験者による外部評価委員制度を導入した。評価委員の選定に当たっては、1)教育面での専門性:大学運営や大学院教育に精通し実績がある、ならびに、2)研究面での専門性:養殖科学分野について、広い視野に立って将来展望についての理念を持っている専門家、を対象として選考を進めた。本グローバル COE の博士後期課程教育(DC)の特徴は、担当する指導教員以外に海外アドバイザー、国内アドバイザー、先端技術者による拡大アドバイザーを組織的に導入した点である。DC 学生は海外アドバイザーやグループ内の若手研究者アドバイザー、生産現場を熟知した技術員アドバイザーなど所属研究室以外からも、研究計画や実施状況のチェックを随時受けるため、個々の研究内容は継続的に改善される。研究面での特徴は、種苗生産、養殖、環境、利用・安全、流通・リスク分析を総合的に組み合わせ、養殖科学の確立を目指している。この教育と研究、二つの分野について、外部評価委員により拠点発足2年目の中間期と、終了年度に評価を受けることにした。

外部評価委員の選考に関しては、構成員4名による選定委員会を設け、半年にわたり多くの候補者について検討を加え2名に絞った。選考結果を全体会議に提案し、賛同を得た。選定基準は、養

殖科学の将来的発展を見据えて、組織全体の運営状況の評価と同時に、飼料開発と養殖環境の教育・研究に関する評価・助言の得られる研究者を候補者とした。今後の養殖科学発展には天然飼料に頼らない、安全・安心な配合飼料の開発が重要であると同時に、永続的養殖可能海面利用の存続を図ることが必要となる。

その結果、外部評価委員を、竹内俊郎氏(東京海洋大学教授)、川合眞一郎氏(甲子園大学教授・前神戸女学院大学学長)に依頼することにし、両氏からも受諾する旨の回答を得た。

竹内俊郎氏は「海産魚介類種苗の健全性向上」をテーマに、種苗生産における餌の研究を行っている。とくに、配合飼料による健苗育成の世界的権威であり、その功績により平成20年度日本水産学会賞を受賞された。川合眞一郎氏は海面養殖科学にとって最も重要な、水質環境と養殖魚の健康状態との関係について、多くの業績を残されている。また、前神戸女学院大学長として大学運営・教育についても精通している。本拠点では年度末に成果中間報告書を整え両氏に中間外部評価を依頼する。さらに指摘された事項については、早急に対応することを計画している。